



国語教育の実践と理論を問い続けて

櫻本 明美

1 はじめに

「授業って、難しい」という実感からスタートした国語教育の実践と研究である。人生の歩みと共に、知らず知らずのうちに、もう四十余年の歳月を重ねてきた。後半の二十年間は、神戸親和女子大学教員として勤めさせていただいた。

これまで、振り返るよりは前を見ることに意識を向け、過ごしてきたように思う。節目を迎えた今、「終わり」を「新たな始まり」に変えるために、国語教育研究に関する仕事をしぼって、自らの軌跡を辿ってみる。

2 小学校における学級づくりと国語の授業

初めての実践研究発表は、教職4年目の夏であった。全国新聞教育研究会山形大会でのことである。最初の勤務校に全新研理事の先生がいらっしやった。その先生のご指導を受け、実践を重ねたものをまとめて発表した。その後、学級新聞を中心とする新聞教育に力を入れて取り組んだ。また、このころ、児童詩教育研究会の月例会に参加し、先輩方の実践に学びながら、学級で実践したことを報告する機会をいただくようになった。因みに、小学校教員1年目は、第5学年の学級担任である。教員1年生として初めての研究授業は国語科で、児童詩の鑑賞を詩作につなげる指導であった。

小学校で教職に就いた当初は、学級づくりに自信がもてず、日々悩んでいた。そんな私でも、学ぶ機会を伴う実践を重ねるごとに、子どもへの目が拓かれ、そのことが「あした、また、がんばってみよう」という教育実践への意欲につながった。

また、30歳になったばかりの頃、児童詩教育研究会月例会でのこと。大先達の故弥吉菅一先生が、確か研究会のあとの雑談中に「あなたは、『第二の大村はま』になれますよ。」と、思いもかけない励ましの言葉をかけてくださった。嬉しくて、今でも忘れられない。

3 実践の理論的基盤を求めて

小学校では、4校で学級担任を経験している。その間に、大阪市教育委員会から、1年間大学に、そして、2年間大学院に、計3年間の研修の機会をいただいた。この研修では、実践の側に立つ者として、実践と理論のつながりを追究することができた。具体的には、「説明的文章教材の読み」に的をしぼって、まずは指導法の研究に取り組んだ。さらに、「説明的文章の教材に関する研究」をテーマとして、修士論文にまとめた。このテーマは、今も、まだ、追究の途上である。

さらに、その後、平成4年4月より大阪市教育センター所員を命じられ、2年間、主に教員研修や国語科の教育研究に携わる。続いて、平成6年4月には、大阪市独自の制度として設けられた教育センター教育研究官の初代1名に選任され、大阪市の教育推進のための計画を立案し実施につなげていった。また、研究室所員の研究をサポートするなど、諸活動に携わった。実践に最も近い場での理論構築に取り組むことができた時期であったと言える。

大学院修了後も、恩師中渕正堯先生にご指導いただきながら、実践と理論をつなぐ研究を続け、学会での発表や毎月の研究会活動も重ねた。

なお、1990年11月に、大阪市長から「教育上の有益な調査研究」により、受章。また、1993年11月には「大阪教育大学国語教育学会賞」を受けた。

4 大学教員として取り組んだ実践と研究

1996年4月、本学児童教育学科専任講師に就任した。このときの学科長が、山根耕平現理事長である。大学での授業は経験していたが、初めて3年次ゼミを担当し、研究室もいただいた。こうして、学科長はもとより、諸先生、職員の方々の手ほどきを受けながら、大学教員生活がスタートした。それから20年間に、人事上の立場も変わり、現在に至っているのは、後頁の〈略歴〉にある通りである。

この間、担当した授業は、国語教育に関する科目、基礎演習、児童教育学専門演習などである。また、小学校教育実習事前・事後指導の担当も長期にわたっている。その他に、平成15年度には、西鈴蘭台高校からの要請に応じて、当時教授であった山根先生、本間先生と共に数回にわたって総合学習の授業を担当し、高大連携の実践に寄与することができたことも印象に残っている。

また、2012年4月からは、大学院の授業を担当した。男女共学で、学部からの進学者、社会人、中国からの留学生と、学生も多様な中での授業は、学部の授業とはまた違った手ごたえが感じられる。受講生は少人数である。そこで、授業科目の一つ「国語科教育特論」では、この点を効果的に活かすために、毎年、展開に一工夫を加えてみている。

授業以外には、特に小学校教員をめざす学生に対し、自らの実践経験や最新情報などをもとにした指導、助言に努めてきた。また、教員採用試験に関する指導にも力を注いだ。授業終了後には、「先生、国語の指導案を考えたのですが、見ていただけますか。」「本を紹介してください。」などと、ゼミ生はもちろん、それ以外の学生もしばしば研究室を訪れる。そういった日常の繰り返しの中で、学生たちの意欲が私自身の教育実践を拓くための大きな力となっていたように思う。まずは、何より学生に恵まれたことに感謝したい。

研究活動に関しては、大学に移ってからも「実践と理論をつなぐ」という姿勢を変えていない。そこでは、論理的思考力を軸に据え、より豊かな言語力の育成をめざすという一貫したテーマのもと、先行研究や実践、研究発表等に学びながら探究し続け、論文にまとめ発表してきた。

学外の研究会活動にも積極的に参加するよう努めた。

しかし、振り返ってみると、反省点もある。ある日、植山俊宏教授（京都教育大学）の研究室で、私も大切に繰り返し読み学んでいる一冊の文献を目にした。小田迪夫『説明文の授業改革論』（明治図書 1986）である。それを手に取ってみて、驚いた。同じ本なのに厚さが私の本の倍ぐらいある。至るところに付箋紙や書き込みが加えられたためである。一冊をこれぐらい読み込む研究姿勢に圧倒された。そして、私の研究に対する姿勢の甘さを改めて自覚し、自戒した出来事である。

カナダ・トロントでの海外教育実地研究の引率者として計5回にわたって学生に同行したことも印象深い。その都度、小学校やシュタイナー学校を訪問させていただいたことは、私自身の研究活動としても、大きな意味があった。その1点目が、日本より10年も早くから取り組まれていた総合学習の実践について学んだこと。2点目は、コミュニケーション能力の発達に関する教員の意識を知り、日本と比較することで問題点をより明確に把握できたことである。また、毎回、参加学生（約20名）の英語による教育実習の事前指導にあたりながら、私も共に桜井みどり氏とスーザン氏による英会話レッスンを受けた。そのレッスンの方法が興味深く、国語科指導を工夫するときのヒントになっている。

2015年9月には、イタリア教育芸術研修の引率者（計5名）のうちの1人として、38名の学生と共にイタリアを巡った。その中のローマ日本人学校訪問時に、学生の活動とは別プログラムとして、日本人学校と日本語補習校の先生方を対象に、国語教育に関する講話の機会を設けていただいた。また、今回初の試みとして、マリア・コンソラトリーチェ幼・小一貫校で、学生が小学校1～3学年の各クラスで「漢字の成り立ち」の実習授業を実施した。そして、イタリアの子どもたちや先生方の興味を引く展開を目の当たりにした。この二つの経験は、国語教育に関する忘れられない思い出である。

5 おわりに

退職という、私にとっては大きな区切りの時を迎え、やはり、一番に思うことは、人との出会いに恵まれたことへの感謝である。

職場では、つい、忙しさにかまけて読書や探究活動を怠ったり、執筆を一日伸ばしにしたりしているとき、姿勢を立て直すきっかけを作っていただいた。また、志を共にする人たちや、多様な職種の友人は、視野の広がりや捉え方の深まりをもたらしてくれた。恩師は、常に、次の課題が何かということに気付かせてくださった。そして、そのときどきの教え子たちとは、明日を見つめて今を生きる充実感を共にすることができたという実感がある。

これまでにいただいた数えきれない出会いを宝物に。そして、これからの「未知との出会い」を楽しみに精進するつもりである。

〈略歴〉

- 1969年 3月 大阪教育大学国語国文学科（小学校4年課程）卒業
1969年 4月 大阪市立小学校教諭
1980年 4月 大阪市教育委員会より大阪教育大学に1年間内地留学生として派遣
1985年 4月 大阪市教育委員会より兵庫教育大学大学院修士課程に2年間内地留学生として派遣
1992年 4月 大阪市教育センター教育研究室 所員
1993年 4月 和歌山大学教育学部 非常勤講師（～1995.3）
1994年 4月 大阪市教育センター教育研究室 研究官
1996年 4月 神戸親和女子大学文学部児童教育学科 専任講師
大阪教育大学 非常勤講師（～2004.3）
1999年 4月 神戸親和女子大学文学部児童教育学科 助教授
京都教育大学 非常勤講師（～2001.3）
2005年 4月 兵庫教育大学 非常勤講師（～2006.3）
神戸親和女子大学文学部児童教育学科 教授
2006年 4月 教育専攻科長（～2008年3月）
2010年 4月 教育専攻科長（～2012年3月）
2014年 4月 大学院教育学専攻主任 現在に至る。

〈学会等の活動〉

- 大阪教育大学国語教育学会会員 兵庫教育大学言語表現学会会員
日本国語教育学会会員 全国国語教育学会会員 「新しい国語実践」の研究会実行委員

〈研究業績〉 *以下、主なもののみを記す

1 著書

- ① 『構成の指導』（共著） 明治図書 1988年
- ② 『授業のための全発問 説明文教材 小学6年』（共著） 明治図書 1991年
- ③ 『国語教育基本論文集成』（共著） 明治図書 1994年
- ④ 『説明的表現の授業—考えて書く力を育てる—』（単著） 明治図書 1995年
- ⑤ 『子どもとひらく国語科学習材 音声言語編』（共著） 明治図書 1998年
- ⑥ 『国語科教育の理論と実践』（編著） 現代教育社 1999年
- ⑦ 『到達目標チェックで変わる国語の指導』（共著） 明治図書 2002年
- ⑧ 『読む力・考える力を育てるノート指導』（共著） 明治図書 2005年
- ⑨ 『国語力をつける発問づくり』（共著） 明治図書 2005年
- ⑩ 『わかる板書で読解力を高める』（共著） 明治図書 2007年

- ⑪ 『中学校・高等学校 国語科教育法研究』（共著） 東洋館出版 2013年
- ⑫ 『言語コミュニケーション能力を育てる－発達調査をふまえた国語教育実践の開発－』（共著） 世界思想社 2014年

2 論文

- ① 「説明的文章の教材に関する研究」（単著） 『国語教育攷』 第3号 兵庫教育大学大学院国語教育攷の会 1987年
- ② 「説明的表現の指導－書き出しの工夫に着目して－」（単著） 『研究論叢』 第30号 神戸親和女子大学文学部 1996年
- ③ 「民話教材の可能性を求めて－『語り』の楽しみに着目する授業－」（単著） 『教育専攻科紀要』 第2号 神戸親和女子大学 1997年
- ④ 「文章表現力の発達に関する一考察－表現過程に働く『発想』をとらえて－」（単著） 『国語と教育』 第23号 大阪教育大学国語教育学会 1998年
- ⑤ 「総合的な学習につながる国語科授業の検討（1）」（単著） 『教育専攻科紀要』 第4号 神戸親和女子大学 1999年
- ⑥ 「『読書のアニメーション』に関する実践的検討」（単著） 『国語教育探究』 NO.14 国語教育探究の会 2000年
- ⑦ 「言語表現に関する指導の課題－高校生の作文分析から－」（単著） 『教育専攻科紀要』 第6号 神戸親和女子大学 2001年
- ⑧ 「『語り』への意識をふまえた指導」（単著） 『児童教育学研究』 第21号 神戸親和女子大学 2002年
- ⑨ 「『読書へのアニメーション』に発想を得た文学教材の読み方」（単著） 『国語教育探究』 NO.15 国語教育探究の会 2002年
- ⑩ 『国語科教育改善のための国語能力の発達に関する実証的研究Ⅱ』（共著） 科学研究費補助金（基盤研究（B（1）））研究成果報告書 2003年
- ⑪ 「『対話』における聞くことの教育」（単著） 『国語教育探究』 NO.17 国語教育探究の会 2004年
- ⑫ 「『食』に着目した国語科の教材と指導」（単著） 『教育専攻科紀要』 第9号 神戸親和女子大学 2005年
- ⑬ 「国語科における習熟度別少人数指導の具体化を考える」（単著） 日本基礎教育学会 第11会大会要項 2005年
- ⑭ 「『考えて書く力』をどう育てるか」（単著） 『教育専攻科紀要』 第10号 神戸親和女子大学 2006年
- ⑮ 「『説明文を読むこと』の授業改善」（単著） 『教育専攻科紀要』 第11号（『児童教育学研究』 第26号合併号） 神戸親和女子大学 2007年

- ⑯ 「小学校国語科における新聞活動の再構築」(単著) 『教育専攻科紀要』第12号 神戸親和女子大学 2008年
- ⑰ 「『つながり』の深化の過程を重視する話し合いの授業に向けて」(単著) 『月刊国語教育研究』NO.434 日本国語教育学会 2008年
- ⑱ 「説明文の授業における教材再読の有効性を探る」(単著) 『教育専攻科紀要』第13号 神戸親和女子大学 2009年
- ⑲ 「説明文教材による要約指導の検討」(単著) 『教育センター紀要』第7号 神戸親和女子大学 2011年
- ⑳ 「説明文教材の実態に関する考察(1) —論理的思考の促しに着目して—」(単著) 『教育センター紀要』第8号 神戸親和女子大学 2012年
- ㉑ 「説明文教材による要約指導法の開発」(単著) 『児童教育学研究』第32号 神戸親和女子大学 2013年
- ㉒ 「テーマ追究による国語科教材の開発」(単著) 『教育センター紀要』第10号 神戸親和女子大学 2014年

3 その他

- ① 「思考力が伸びる表現学習」(単著) 『学校教育』NO.900 広島大学附属小学校 1992年
- ② 「表現を呼ぶ文学教材の授業」(単著) 『実践国語研究』NO.172 明治図書 1997年
- ③ 「『学ぶっていいな』の実感が得られる授業に」(単著) 『実践国語研究』NO.176 1997年
- ④ 「学習活動の多様化で意欲的な説明文教材の授業を創る」(単著) 『実践国語研究 別冊』NO.200 明治図書 1999年
- ⑤ 「書くことの授業におけるアイデア」(単著) 『実践国語研究 別冊』NO.204 明治図書 2000年
- ⑥ 「これからの『話すこと・聞くこと』の実践に期待すること」(単著) 『実践国語研究 別冊』NO.228 明治図書 2002年
- ⑦ 「人、物、こととの交流に働くことばの学び」(単著) 『実践国語研究 別冊』NO.245 明治図書 2003年
- ⑧ 「『見ること』がもたらすものと国語科の授業」(単著) 『月刊国語教育研究』NO.382 日本国語教育学会 2004年
- ⑨ 「情報を自分のくらしと比べながら理解する読み、伝え方、伝わり方を学ぶ読み」(単著) 『実践国語研究』NO.258 明治図書 2004年
- ⑩ 「心からの言葉を紡ぐ対話学習」(単著) 『月刊国語教育』Vol.27 東京法令出版 2007年
- ⑪ 小学校国語教科書(東京書籍)編集委員 2000年4月より現在に至る。